

CONTENTS

- 「コロナの中で」 数珠つなぎで、ネットワークを拡大
西成区 誰もが暮らしやすいまちづくりを未来につなげる 2
- 天王寺区 昭和「男」の体操教室
「健康に役立つ」取組みで閉じこもりを防ぐ 3
- 淀川区 災害ボランティアセンター運営ボランティア養成講座
「カードゲームでマッチングを体験」 4
- 鶴見区 食の生命線、ふれあい喫茶再開
「しあわせのチューリップデー」特別企画 5
- 住吉区 「しあわせのチューリップデー」特別企画
LGBTへの理解を深め、誰もが輝ける世界に 7
- はじめまして！こんにちは
NPO法人リバイブ・ハウス
帰る場所がある！生きる場所がある！
復活する場所がある！ 8

大阪の 社会福祉

2020.11

786

The social welfare
in OSAKA



社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>



▲コーナー第2回は、NPO法人くるるの大西史高さん(左)のお話を掲載。妻の大西裕子さん(右)と力を合わせ、コロナ禍でも“今できる活動”を継続中(2面に掲載)

◀くるるの配食「ONIGIRIプロジェクト」は、お母さんたちの声を直接聞く機会にもなった

市社協
区社協

「今できること」を続け、
未来につなぐ

新型コロナウイルスが私たちの生活や地域福祉活動に及ぼす影響は依然として大きいですが、そのような中でも歩みを止めないことを選んだ取組みも見られる。今号は、コロナ禍でも「今できること」を続ける活動者の声

(2面)をはじめ、地域の思いに応えるために活動を再開した取組み(4面)(6面)、未来に向けて自分たちの住む地域について考える場(3面)や災害への備えについて考える場(5面)などを紹介する。

HB

コロナで毎日家にこもっていることに、も疲れたある夜、学生時代一緒にボランティア活動をしていた友人から、電話がかかってきた。特に用事はないと言う。彼女も同じこもる毎日、何か面白いことがないかと探していたら、昔使っていたダイヤル式の黒電話が、装飾品として飾ってあったのに気づいた。この電話が本当にまだ通じるのかを確かめてみたくなってしまう。通じるか通じないか、ギーギーコとダイヤルしている間中ドキドキして、もしもその声が遠くから聞こえた瞬間、世界が広がったことがうれしくて、と弾んだ声。それで用件は終わったはずだけれど、それから30分、彼女は近況をしゃべりまくって、やっと電話を切ってくれた。彼女は言う。瞬間に通じる短縮のピポパでは味わえない昭和を感じることができた。無駄に思える時間が楽しかったと。これからの社会はますます効率第一になっていく。余りの時間が無くなっていく。コロナのせいで生まれた、退屈で何もない時間が素敵だったという友人が、大切な何かを気づかせてくれたような気がした。(石)



NPO法人 くるる
おおにしふみたか
理事長 大西史高さん

プロフィール：妻・裕子さん（ケアマネージャー）と助け合いながら、こども食堂を中心とした、こどもの居場所づくりに力を注いでいる。将来は、法人として高齢者対象の事業に着手したいと考えている。3人の娘の父親。介護福祉士。

介護福祉士なのに、こども食堂？

にしよどこども食堂くるるは、2016年、裕子さんと地元の元PTA会長とともに出来島地域でスタート。月1

回、18時、19時の2部制で食事を提供。20時には全員を集め、町ごとにそれぞれの自宅まで送る。こども同士が集まって夕食をとる特別な空間は、学校でも話題になるほど人気で、たちまち参加者が増えた。初回は約30人からはじまり、現在では70人を超えている。介護福祉士の大西史高さんが「くるる」で活動を始めたのは、裕子さんから「立ち上げたばかりのこども食堂を手伝ってほしい」と頼まれたからだだった。

「仕事ではこどもと関わらないので、最初は、え…？」と

地元商店と協力した「ONIGIRIプロジェクト」

くるるは、メインの事業のこども食堂に加え、近年は、多世代交流や学習支援、食育支援など、事業も盛りだくさんになった。今年、法人化すると同時に史高さんは代表に就任。対外的な仕事を引き受けるほか、裕子さんが仕切る現場もサポートした。組織が整い「さあ、これから」というときに、新型コロナウイルスが流行した。

史高さんが最も危機感を持ったのは、家に閉じこもるこどもたちのストレスや、日中親が不在の家庭の食事だ。



「アマビエチャレンジ」では協力してくれる人が次々とつながり、「にしよどの力を感じた」

数珠つなぎで、ネットワークを拡大 -こどもの居場所をまもる-

4月、緊急事態宣言発令後は、こども食堂を休止する代わりに、「ONIGIRIプロジェクト」をスタート。おにぎりに地元商店のおかずをセットにしたもので、4月17日から5月29日の間に計1300食を提供し、喜ばれた。その後も、社協の外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業の配食などを利用し、継続している。

「弁当を手渡す時、いつもはそんな風じゃないのに『ありがとう』ときちんと挨拶する子もいて、どうしたのかなと逆に心配になりました」と、こどものデリケートな心の変化を気にかける。史高さんは、こどもたちに「ふみさん」と慕われ、中には「ふみさんを助けるんや」という不登校の子が弁当づくりを手伝い、史高さんが励まされることもある。

人の心をつかむのが上手な人たらし

「人の心をつかむのが上手



密を避けて広い体育館でダンボール工作イベントを開催（出来島小学校）

な人たらし。こどもにも大人にも、間に壁をつくらない。そこを一番頼りにしていきます」と裕子さん。疫病退散の妖怪アマビエを描くコンテスト「アマビエチャレンジ」を企画した時も、企業賞をつけるため、異業種ネットワーク「にしよどリンク」の仲間を通じて「誰かいませんか？どっかないですかね？」と聞いて回る。すると、町工場の社長、放課後デイ、運送会社…と数珠つなぎで紹介され、30社近くが協賛した。

最近では、出来島小学校の広々とした体育館で密を避けながら、地元企業提供のダンボール廃材でつくる少人数の工作イベントを開催し、こどもをのびのびと遊ばせている。

「今は、少人数、短時間、野外など、リスクを最小限に抑えた環境を模索しています。12月にはクリスマス会の代わりに防災をからめたイベントを企画しています。コロナ禍でも、できることはできるだけ試してみたいと思っています」と史高さん。こどもたちの心をつかんで離さない。

誰もが暮らしやすいまちづくりを 未来につなげる

南津守小学校で10月7日、5年生による「総合的な学習の時間」の発表会がおこなわれた。西成区社協では、福祉の充実したまちづくりのため福祉教育を支援しており、その一環として南津守小学校の学びをサポートしてきた。今回の発表会に挑んだ児童たちは、クラスメイトだけでなく保護者や地域の方々に向けてプレゼンテーションをおこなった。自分たちの考えや意見を聞いてくれる大人がいる—このことは児童たちにとって地域の一大事であるという大きな自信になっただろう。

段差や狭い歩道など バリアを調べ、マッピング

この授業は「みんなが暮らしやすい南津守を考えよう」がテーマ。探究的な学習に主体的に取り組むとともに、自分が暮

らす地域のまちづくりについての意識を持つようになることを目的としている。

授業の全体的な流れは次のとおり。まずは、校内にある段差や溝など、バリアを探し、意見交換。さらに、車いす体験や視

い、プレゼンテーションに向けて準備。リハースルも重ねた。

こどもらしい自由な発想で 解決法を考えて発表

発表は、新型コロナウイルス対策に配慮し、十分換気した講堂でおこなわれた。5年生の3クラスはそれぞれブースに分かれ、班ごとに選んだテーマで発表した。

交通量の多い交差点を取り上げた班は、視覚に配慮の必要な方でも安心して交差点を横断できるように音の出る音響式信号機の設置を提案。それだけにとどまらず、自分たちができることとして、交差点で困っている人を見かけたら「一緒に渡りましょうか」と声をかけることをあげた。そのほか、急なスロープについて考えた班でも、スロープにとまどっている人がいればやさしく声をかけたいと発表し、大人に任せるだけでなく自

フィールドワークの様子



“他の誰か”の立場になって、小さなバリアも発見

ため断念。そこで道路自体を広げようと、歩道と車道の二階建てにする案を披露した。イラストで説明してくれたが、こどもならではの自由な発想が光っていた。児童たちの発表後、校長や連合町会の方は、驚きと感動の声をあげた。区社協・地域支援担当の修田翔さんも感想として、「高齢者や小さなこどもも、障がい者の方など、自分ではない誰かのことを考える中で気づくことは多かったと思います。それらを今後の学習や生活に役立ててください」と述べた。未来に向けて、まちづくりを担うであろう児童たちの成長が期待される。



堂々としたプレゼンテーション。真剣に耳を傾ける

昭和男の体操教室

「健康に役立つ」取組みで閉じこもりを防ぐ

2つの思いがつながり 体操教室がスタート

昨年12月より、毎月第1・3火曜日、天王寺区老人福祉センターで、60歳以上の男性を対象にした「昭和男」の体操教室が開かれている。昨年7月、区社協が実施する生活支援



イッチ、ニー、サン、シッ、元気な男たちの声

男性は、女性と比べ身体が硬くなりがちだ。リタイア後は、

体制整備事業の「男のセカンドライフを考える会」（当事者で高齢男性の社会参加を考える会）の活動から生まれた。同会のリーダーをつとめる松本昌廣さんは「閉じこもりがちな男性に外に出てもらうためには、健康に役立つ、メリットがあるものがない」と考えていた。その頃、現在体操教室を指導する文野勝利さんは、天王寺区理学療法士会を立ち上げたことをきっかけに、理学療法士として地域に貢献したいと区社協を訪れていた。「男のセカンドライフを考える会」と理学療法士会がつながって、体操教室がスタートした。

身体を動かす機会が少なくなる。文野さんはそうした男性のために、柔軟性を保つストレッチを中心にプログラムを用意した。文野さんは「生活習慣になる体操」をめざし、自宅でもできるように体操のガイドブックを作成・配付した。第1火曜日から開始し、文野さんの体操指導の様子を撮影し、第3火曜日にはその動画を見ながら、参加者のみで主体的に活動している。

自宅体操をしている人も増えていたためか、「足首の痛みがなくなった」「こむら返りがなくなった」など効果があった。この日も、体操終了後「背が高くなったみたいや〜」、そんな言葉が自然に出ていた。しっかりと効果が出ている点が、この体操教室の魅力であり、参加者の定着につながっている。



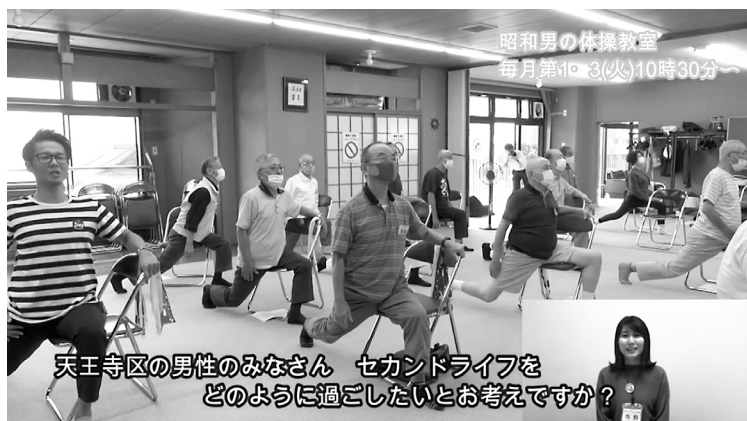
リーダーの松本さん(左)を中心にサークルを自主運営

地域全体に 広がることを目指して

「将来的に、体操活動を中心に大きなサークルとして育ってくれたらと願っています」と松本さん。文野さんの指導に惚れ込み、ジムやラジオ体操の場所でもチラシ配りに熱心だ。新型コロナウイルスの感染防止のため、体操教室は3か月間、休止することとなった。その間、区社協が体操教室参加者を対象に実施したアンケートに、「コロナがおさまったら体操教室を再開してほしい。再開

の連絡を待っている」という声もあったため、場所を広い部屋に変更し密を避け、6月末に体操教室を再開した。

取材の日は、男性の居場所づくりPRのために出演する、「オンライン区民まつり」のビデオ撮影も実施された。区社協・生活支援コーディネーターの西野泰加さんは「話し合いを重ね、ひとつのものを作り上げることで、仲間意識が深まることを期待しています。体操教室のメンバーが天王寺区の男性の見本となり、区内で活躍する男性が増えると嬉しいです」と話した。



天王寺区の男性のみなさん セカンドライフを
どのように過ごしたいとお考えですか？

区民まつりの動画ビデオでは生活支援コーディネーターの西野さんが事業説明(右下)

災害ボランティアセンター 運営ボランティア養成講座

災害ボランティアセンターを
体験で知る

9月19日、淀川区民センター
で「第2回災害ボランティアセ
ンター運営ボランティア養成講
座」が開催された。

～カードゲームでマッチングを体験～

第1回は、一般区民を対象に
「津波・高潮ステーション（西
区）」の見学がおこなわれた。

第2回の今回は、一般社団法人
ピースボート災害支援センター
の指導のもと、災害ボランティ
アセンター（以下、災害VC）

地域住民、社協会長、町会長、
地域の防災リーダーなど約60人
が集まった。

前半は、災害VCの位置づけ
や役割について説明がおこなわ
れた。災害VC運営の三原則は
「被災者中心」「地元主体」「協
働」であり、ボランティアの力
を借りながら、復旧・復興に向
けて取り組み、被災者の自立・
生活再建をサポートするのが目
的だ。地元の実情を把握し、地
域資源を再生・開発して、長期
的な支援につなげていくことが
求められる。

の機能や運営を
考えるグループ
ディスカッション
形式のワーク
ショップをおこ
なった。会場に
は、一般応募の

具体的運営
業務の紹介
は、参加者一
人ひとりが
「我が地域の
こと」として
て、災害VC
を総合的に理
解するよい機
会となった。

みんなで意見を出し合いマッチング体験

後半は、
「災害VC
マッチング体
験カードゲー

ム」を活用して、参加者に
運営ボランティアを体験し
てもらう。進行役から渡さ
れる被災者のニーズカード
の内容を把握し、多様な特
徴を持つボランティアのカー
ドをマッチングさせていく。
途中、マスク対応や、け
が人が発生したなどのハプ
ニングが起こったときは、
その都度、対応しなければ
ならない。各グループと
も、地図を広げて、議論を
重ねながら、案件に対し慎
重に対応策を講じていた。

移り変わる状況に
どう対応するか

また、災害VCを立ち上げた
当初、大人数のボランティアが
やってくる大型連休、数ヶ月を
経て災害VCの閉鎖を視野に入
れる時期など、3つのフェーズ
に分け、状況の移り変わりも体
験する。対応が難しかったこと
や判断に迷ったことなどを振り
返り、グループごとに発表し、
「答えはひとつではないこと」

「判断次第で状況が変わって
いくこと」を実感した。目の前に
災害が起きたら、ゆっくりと考
える余裕はないかもしれない。
だからこそ、災害が起きる前
に、多様な課題にふれておくこ
とが必要だ。

淀川区社協の三田和夫会長は



最後に区協職員より配慮が必要な方への対応方法を説明

「マッチングの難しさを実感し
た。被災状況やニーズを伝える
立場として責任を感じました。
地域に持ち帰り、みんなに伝え
ます」と話す。

同講座の企画者の一人、区社
協・生活支援コーディネーター
の谷澤庸介さんは、「地域と災
害ボランティアセンターの連携
は必須。地域社協会長や防災
リーダーには、この体験を通じ
て、連携の入口に立ってほしい
と思いました。そのためには、
まず災害VCの存在と役割を
知ってもらわなければなりません。
今回の講座が、はじめの一
歩になったらいいと思います」
と期待している。



「災害VCとは？」参加者は熱心に聞き入っていた



食の生命線、 ふれあい喫茶再開

茨田東地域では、月2回土曜

日の午後に、茨田東福祉会館でふれあい喫茶を開いている。同地域は区内でも群を抜いて高齢化率が高い。また、食事ができる店が少なく、買い物難民のまち化してきている。そうした背景もあり、同地域のふれあい喫茶では、飲みものだけでなく、井ものやチラシ寿司、炊き込みご飯なども提供している。人気が高く、毎回50〜60人ほどが足を運び、30分前から並ぶ。新型コロナウイルスの感染防止のため、区の指針では飲食を伴う活動は自粛が推奨されている。



行き届いた感染防止策のなか、安心して楽しむ

る。しかし、行列ができるほど必要とされている活動を途絶えさせてはいけないという気持ちで強かった代表の片平フジ子さん。「どうしても再開できるかを考えるしかないと思いました」。地域社会福祉協議会・会長の桑名一夫さんは、その思いを受けとめ、ボランティアを集めて、コロナでも続けられる方法を考え抜いた。

結果、まず、食事中の密を避けるためにテーブル数、座席数を減らし、飛沫感染防止のパーティションを設けた。狭い玄関を閉じ、部屋に直接入ることのできる大窓を開放して出入りの密を防ぐとともに、換気を良くした。ボランティア同士が感染しないように、厨房とは別の部屋も調理場として使用した。

新たな発見があったのは、提供時間を2回に分け、予約制にしたことだ。「2部制にすることで活動時間は延びますが、ゆとりを持って動けることがわかりました」と片平さん。

市・区社協が実施している外出自粛高齢者・障がい



2部制の入れ替え時等、ていねいに消毒する

者等見守り支援事業による配食弁当を利用し、9月から待ちに待たれたふれあい喫茶を再開。作るほうも食べるほうも笑顔があふれる。「久しぶりに顔を合わせて和気あいあいとしていま」と見守る桑名さん。食べるころがが少ない、買い物するところがない地域で、食の生命線となっていたふれあい喫茶が、ボランティアの努力と工夫によって再開できた。

区社協・地域支援担当の松井清夏さんは「7月に全地域にヒアリングをしたときから、茨田東はやることに迷いがなかった。リスクはなくならないが、減らすことはできるはず」と強い気持ちで支えている。

この冬は、どうするか。試行錯誤のまっ最中。コロナは終わらないが、茨田東の挑戦は続いていく。

令和2年度(第74回)赤い羽根共同募金運動 大阪市社協職員が街頭募金活動

10月1日から、全国一斉に、赤い羽根共同募金運動が実施されています。

市社協職員が10月1日の夕刻、天王寺区上本町六丁目交差点周辺で、街頭募金活動をおこないました。共同募金の配分金は、市社協が実施する多くの事業にあてられていることを踏まえ、財源・資金の大切さ、何より募金をいただいた方の思いを再確認するため、平成16年から毎年、共同募金運動がスタートする10月に職員が街頭に立ち募金活動をおこなっています。会社帰りの方や学校帰りの学生、小さなお子さんなどたくさんの方々が募金にご協力くださり、



上本町六丁目交差点付近にて



四天王寺境内西重門付近にて

この日は2万1,919円の募金が集まりました。

10月21日には、四天王寺境内西重門付近にて、大阪府共同募金会が主催する街頭募金活動及び広報活動に、職員が参加しました。

多くの方に協力していただき、その善意にこそがあたりまわりでした。みなさまからいただいた善意は、大阪府共同募金会を通じ、地域福祉事業や社会福祉施設の整備、社会福祉団体・ボランティア団体等の活動支援、災害復興支援など、さまざまな福祉事業に活用されます。共同募金運動は、来年3月31日まで全国各地で取り組まれます。

「しあわせのチューリップデー」特別企画

LGBTへの理解を深め、誰もが輝ける世界に

チューリップデーとは、童謡「チューリップ」の一節にあるように、性別、世代、国籍を超えて誰もが輝ける日として命名されたイベント。ダンスや音楽など盛りだくさんの内容で、今年4月4日に開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響で来年まで延期になった。

今回はプレイベントとして、9月26日、住吉区民センター大ホールで「しあわせのチューリップデー」特別企画が開催された。内容は、LGBT（性的

少数者）のことを理解する講演とトークイベント。感染症対策として、十分な間隔を空けて席が設けられた。

まずは、同イベントを主催する一般社団法人LGBT.Tの代表、長崎アンナ（麻倉ケイト）さんが登場し、地元に着した話題で会場を盛り上げた。その後、住吉区民協会の北原隆副会長が「一人ひとりがお互いの違いを個性と受けとめ、認め合うためにできることは何かを考え、このイベントを通して、LGBT



一般社団法人LGBT.Tの叶ともみさん(左)と長崎アンナさん(右)

Tの方々への理解がより一層深まることを期待します」と挨拶した。次に、性同一性障害であるとの診断をきっかけに女性として生きることを決心し、現在はボランティアで啓発活動をおこなっている山崎あおいさんが登壇した。ある企業の調査では13人に1人がLGBTとされており、特別な存在ではないと強調。一人の人間として接してほしい、見守ってほしいと訴えた。そして、長崎アンナさ

んによるトークショーが始まる。幼い頃から体は男性、心は女性という「性別違和」に悩んでいたアンナさんは、「男の子だから〇〇しなさい」といった決めつけで苦しんだという。音楽学校を経営し、現在のLGBT.Tの専務理事でもある叶ともみさんと出会って以降、歌やダンスに打ち込み、男性歌手として成功をおさめるも、本当の自分を伝えられない苦しさからひきこもり状態に。「嫌われるのが怖くて、親しい人にも話せないのが一番苦しかった」と話すアンナさん。しかし、接する相手も一人の人間であることに気づいて心が軽くなり、世間にもカミングアウト。現在は、女優・歌手・モデルのほか、矯正下着のプロデューサーや映画監督として活躍している。「身近に暮らしているということをまづは知っていただきたい」と叶さんは話し、「理解はできなくても否定だけはしないほしい」とアンナさんは思いを語った。みんなで理解を深める機会となり、来年のイベントがますます楽しみになる特別企画となった。

風をよむ

私たちの暮らしを支える

社会制度へのアクセスの保障

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 講師

鵜浦 直子

私たちの社会には、暮らしを支える様々な社会制度が存在している。これらは、私たちが利用することで初めてその役割を果たす。当然のことながら、私たちが求めている制度であるかどうかが一番重要であるが、そのことと併せて、必要な時に必要な制度へきちんとアクセスできるかどうか大きな問題である。ここでいうアクセスとは、制度の情報を知ることができたり、実際に利用することができたりすることを意味している。

2020年9月に『令和元年度介護保険事務調査』注の集計結果が発表され、介護保険料の滞納により預貯金や不動産の差押えの処分となつた人数が1万9221人と

なつたことが明らかとなった。過去最大の数字となっている。差押えの処分に至るまでには様々な背景があるが、ひとつは、もともと経済的な問題を抱えており、そのなかで介護保険料の支払いも求められていることが挙げられる。

注 厚生労働省老健局介護保険計画課「令和元年度介護保険調査の集計結果について」(令和2年9月25日)

はじめまして! こんにちは♪ NPO法人 リバイブ・ハウス

NPO法人のご紹介 ▷ 68 ◁

帰る場所がある! 生きる場所がある! 復活する場所がある!

「リバイブ」という言葉には、「生き返ること」。また、「復活すること、回復、復興」という意味があります。

社会で失敗しても、誰でも受け入れてくれる場所、回復させてくれる場所が必要ではないでしょうか。青少年から高齢者まで、どんな人でも立ち直って、人生をやり直せる。NPO法人リバイブ・ハウスはそのお手伝いをしています。

1996年4月30日リバイブ・ハウスの前身である大阪弟子教会は、大阪の桃谷にて創立されました。創立者の金沢泰裕牧師は青少年更生活動を中心に、多くの人を助け、社会復帰をさせて来られました。リバイブ・ハウスはそのスピリットを受け継ぎ約20年、実績を重ねて来ました。

現在は大阪市中央区を本拠地として活動しています。



子ども達の居場所

2018年3月から「こども食堂~たこ焼きハウス~」をスタートしました。子ども達は、たこ焼きが大好き。たこ焼きは食べると“心が和む、ほっとする”

大阪のソールフード。その他に焼そば、イカ焼きも提供して、こども達の居場所をもうけています。

目的は、1. こども達を含む弱者の心のケア、2. 児童虐待、DV、貧困家庭、親が多忙、友達がいない、いじめにあっている等のこども達の居場所の確保、温かい食事を提供、学業のケア、カルチャーが学べる(音楽、英語、図画工作等)、生活に希望を与える、何でも相談にのってくれる等のカウンセリングサポートです。

毎週土曜日午後2時からJDCビル4階の食堂にてたこ焼き等の提供を行なっていますが、現在は新型コロナウイルスの感染予防のため、自粛しています。近々1階駐車場に、たこ焼きの屋台を設置し、たこ焼きや、お弁当をお持ち帰り出来るように検討しています。

その他に親御さんのための、青少年育成相談窓口「親の会」を設け、ご相談をお受けしておりますのでご利用下さい(担当: 藤井、宮川)。よろしくお願いいたします。

事務局 〒542-0072
大阪府大阪市中央区高津1丁目3番6号JDCビル4F
連絡先 TEL / FAX 06-6777-1677
E-MAIL dc24osaka@yahoo.co.jp

参加者募集 学校と施設のWEB懇談会

やりがいのある、福祉のええところ伝えます

大阪市社会事業施設協議会では、福祉に興味のある学生さんを対象に、各種別の施設を通して、福祉の魅力、福祉の現場の魅力を伝えるためWEB懇談会を開催します。このWEB懇談会は、福祉や施設についての疑問や聞きたいことを気軽に聞ける場となっていますので、お気軽にご参加ください。

開催日時 令和2年11月20日(金)午後2時から4時

参加施設

- ・児童養護施設 聖家族の家
- ・児童養護施設 高津学園
- ・育徳園保育所
- ・介護の魅力伝え隊
- ・障がい者福祉施設 デーセンター夢飛行

開催内容

各参加施設の職員(勤続10年以下)による施設紹介とフリートーク(質疑応答)

対象者

施設で働いてみたい、または施設のことが知りたい学生

参加方法

36人(先着申し込み順)
・カメラ付きPC、タブレット、スマートフォンをご用意ください。
・インターネットへの有線接続またはWi-Fi環境が整った場所から、ご参加ください。
・申し込みページからお申込みください。

申込方法

申し込みページからお申込みください。

<https://sisetsukyo.osaka-sishakyo.jp/>

①氏名、②住所、③年齢、④電話番号、⑤メールアドレス、⑥お知りになりたい施設名(右記、8団体から3か所をお選びください)、⑦施設に聞いてみたいことを記入のうえ、お申込みください。お申込みいただいた方には、事前にZoomのパスワードとIDをメールでお送りします。



申込締切 令和2年11月16日(月)

事務局

大阪市社会福祉協議会

地域福祉課

Tel.06-6765-5600

立ちどまらない保険。 MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心



クルマの保険 火災の保険 がんの保険

www.ms-ins.com

11月20日

施設協 市社協